

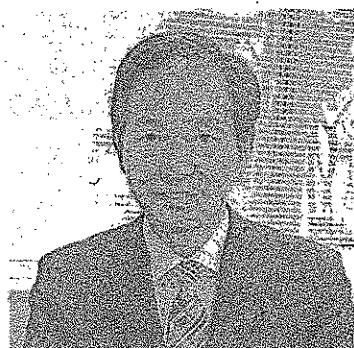
8/26
布旗

戦争法案廃案へ

戦争体制一色の暗い未来ではなく、幸せに生きられる明るい未来を子どもたちに手渡したい。

【教えるを再び職場に送りなさい】をプローブに、教職員はいま、平和への願いを職場で広げています。全日本教職員組合（全教）の蟹澤（かにざわ）昭三委員長に決意を聞きました。（堤田紀子）

全教委員長
蟹澤昭三さん
に聞く



再び戦場には送らない

本質が教職員に見えやすくなりました。「教育再生」の柱は「戦争する国」「教育再生」のねらいが「世界で一番明確になったのです。だつくり」と「企業が活動しやすい国」からいま、不安や心配が「人材育成」を支える広がり、「戦争法案を絶対に許してはダメなんじす。

安倍政権はこの間、教
明るい未来こそ
だ」という思いが広がっ
ていると感じます。
生き生きと自立した人

間として成長していく、い、自信をもって生きていってほしい、といつぱん、という願いをもって、私たち教職員は日々、子どもたちと一緒に向き合っています。みんなのものでなければ困ります。

教職員組合運動と一緒にして、教育の中身を磨き上げていくことと、社会のあり方にについて声を上げて、くることとは、切っても切り離せない関係にあると思います。国は戦争をするために、国民生活全体を規制するでしょ。自由

「平和を広げる国」を私は子どもたちに手渡したい」に「そう思つ」「いいね」だったら「〇」をつけてもらうのです。7月末までに約5万人から、「〇」の意思表示とともに、「私のひとり」とがたくさん寄せられて、
こと】を冊子にして全国会議員に届けて要請します。職場にも届けてきます。
単なる賛成投票ではなく、教職員一人ひとりの意思表示を求める運動であり、教職員総対話運動

「教え子を再び職場に送る
な」の横断幕をもってペ
ートする蟹澤さん（中央）
三月、東京都内

「教え子を再び戦場に送らない」というストローク一ガンは、心をえぐられるような体験から生み出されたものです。われわれは決して負けない。「戦争法案」は必ず廢案にしておきます。

にものがいえないような
醜い世の中や、世もだ
れに生きでせじへはあり
ません。

にものかいいえないような
暗い世の中で、子どもた
ちに生きてほしくはあり
ません。

〔平和〕と云ふ、子
どもが子ともらひし、人
が入らしく生きていく能
力だと教え続けた」

「教え子を再び戦場に
送るな。今はこの言葉
の意味がよくわかりま
す」など、切実な声ばかり
です。〔戦争する国〕では
なく憲法の条をいかし
8月末には「私のひと

として位置づけています。「最初の一人に話をす
るのに、とても勇気がいります」などと教職員もい
ます。実際に声をかけ始めると、実は自分と同じ
思いだったことがわかつてうれしかったという確
信も広がっています。自分が毎日働く職場で、自分
が一人ぼっちじゃないことを「みんなでつなが
り合える」という実感をもつことは非常に大事であ
る。だからこそ、「戦争法案」反対のたたかいを通じて、「平和を広げる力になること」でしょ。

「教え子を再び駄場
な」の横断幕をもつ
トする蟹澤さん(一
月、東京都内)

なると思ひます。
「教子子を再び戦場に
送らば」 というスロー
ガンは、心をえぐられる
ような体験から生み出さ
れたものです。われわれ
は決して負けない。「戦
争法案」は必ず廻案にし
て送る
中央